

① わが国の天然ガス資源	2
② 日本北部の天然ガス	7
③ 日本中部の天然ガス	12
④ 日本南部の天然ガス	21
⑤ 日本における炭田ガスの概況	25

クリスマスツリーは 地下深部に賦存する高圧ガス層から、うまく多量のガスを産出させるために 地上坑口に立てられた大きなかんとしのような形をしたバルブ装置である。最近発見された平原ガス田には大規模のものが多く「こんなところに」と思ふような静かな農村や 浜えんどうのまばらな砂丘等を背景にして 延々と連続するクリスマスツリーの行列を見るのは 仁王様のオンパレードにも似て壯観である。クリスマスツリーの間隔は 必ずしもガス層間のストレーナー(孔明管)間隔を示していないということをご了解願いたい。地上の坑口設備は近接している対象とするガス層に深度の差があったり 斜坑掘りといって たこの足のように はるか海底のガス層にまでストレーナーを持っていっているものもある。

# —特集— 天 然 ガ ス

## わが国の天然ガス資源

### 1. 最近とくに注目されてきた日本の天然ガス資源

地下資源の開発が 産業振興にあづかって力のあることはいうまでもない。わが国では銅・硫黄をはじめ金・銀・石炭等の開発はきわめて古くから行なわれていたが 石油の開発は明治に入ってからという若い歴史しか持っていないのである。さらに 天然ガスに至ってはむしろ石油鉱業のじゃまもの扱いをされていたのが 数年前までの実情で 最近まで石油の生産に伴う大量のガスは 空中放出か あるいはむだに焼却されていたのが普通である。わが国で天然ガス資源が本格的に利用され始めたのは戦後のことに属し 地下資源としてはニューフェースであるが その後における開発と利用の進展にはまことにめざましいものがある。

### 2. 天然ガスは化学工業界に革命をもたらした

昭和27年 わが国においては 初めての試みであった Gas chemical の企業化が成功し これを契機としてわが国の天然ガス生産は顕著な増加率を示している。

(第4図参照)

とくに 昭和32年度からの天然ガス生産は あざやかな上昇カーブをえがいているが これは時を同じく 官民協力して行なわれた組織的調査の結果であり このことはまた政府の積極的な施策に負うところが大きい。

わが国の昭和35年度における年間ガス生産量は 北海道および九州における各炭田ガスは 含まれていないにもかかわらず 前年度の26%増の6.9億 $m^3$ と集計されわが国の天然ガス開発が始まって以来の最高記録を樹立した。(第1図参照)

化学工業原料用に消費された天然ガスの総量は 昭和35年度末急速にその比率をまして 全生産量の約66% 5.2億 $m^3$ とまことに大きな部分を占めるに至っている

### 3. わが国の産ガス能力は急増の方向にある

現在のわが国の石油・天然ガス埋蔵については まだ算定規準に統一を欠くうらみはあるが 石油は概算1,000万 $kI$  天然ガスは2,000億 $m^3$ 以上に達するものと推定されており 埋蔵予想地域の分布は 第2図のようである。最近発見された17地区にのぼる新油田・新ガス田はいずれもこの地域内にあり 中にはしばしば世界級の猛噴井と称されるものも含むという従来みられなかった大きな成果で 今後の増産に対する可能性を 実績をもって証明するものといふことができる。

平原下に 海底に 北は北海道から南は九州まで 今後期待される有望な油田・ガス田は広範囲にわたっており 既存油田・ガス田については 従来開発対象とされていた層準の上位や下位 さらに深部に 新しい産油・産ガス層を発見しているなど わが国の産ガス能力の